

## 前回委員会における委員発言のフォローアップ

令和3年8月2日

1. 前回委員会の「その他」議題において、委員より、概略次の発言があった。  
○核融合発電（原型炉）時代を拓いていくためには、従来核融合に関わりの薄かった業界など経済界に対するコミュニケーションを強化することが課題。  
核融合コミュニティの外縁を拡大していくべきではないか。
2. この指摘は、次のような点と重なり合うもの。
  - (1) 「核融合原型炉研究開発の推進に向けて」（平成29年12月18日核融合科学技術委員会）において、「核融合エネルギーの特性や有用性・安全性に関し、社会との情報の共有と不断の対話が必須」「多様な視点から、核融合エネルギーの社会的価値の最大化を目指した連携活動を計画・推進する」と指摘されている。
  - (2) 主要国において核融合発電に向けた取組が加速しており、核融合ベンチャーなど経済界の動きが活性化している。
3. これは、第2回中間チェックアンドレビューに向けた課題として重要な視座を提供するものと考えられるところ、今後、第1回中間チェックアンドレビュー報告書の検討の中で議論を深めていく。